資料・紹介

エドワード・ノーベック氏と高島の再調査

山　路　勝　彦

NORBECK, Edward 氏は日本をフィールドとし，*Takashima : A Japanese Fishing Community*(1954)，*Changing Japan*（1965）などの著作で知られるアメリカの文化人類学者である。昨年（1974年），岡山県下の一漁村・高島の再調査の目的で6月より12月まで滞日された。その成果は後日，*Changing Japan* の改訂版として出版される予定と聞くが，幸いに本学において調査結果の一部を発表され，しかも改訂版の序章の草稿を事前に一読する機会にめぐまれたので，ここにその一端を要約したい。

その改訂版の序章の草稿は〝日本の近代化・10年の後に〟と題され，次のような前提にたっている。つまり *Changing Japan* 出版以後におこっている変化は，10年前につくりだされた諸情勢がさらに発展したものである，という立場である。そしてその変化の第1の原因はかつてと同じく経済成長にある，と説く。しばし内容を追ってみよう。

それによると，日本はいまや合衆国，ロシアについで国民総生産は第3位にあるが，この地位をうるにあたって，機械化を増大させ，技術革新を行ない，生産物と生産様式の変化を必要としていった，とみる。その例証として，自動車，農耕具，船舶，各種の製造業などの例が挙げられる。さらに，貿易業界にも視線を向け，食糧の輸入状況についても語り，発展途上国との関係もふれる。それとともに国内の暮らしぶりについても観察がなされ，過去10年のあいだに街並みは清潔で明るくなり，豊かさに満ちており，青少年の体格も向上したという。社会関係の領域では，水平的あるいは平等的な方向へと組織が育ち，労働組合はめだって成長してきている，とみる。そのほかに家族関係や婦人の地位の問題にもふれる。もちろんヒエラルキー的傾向は政治，ビジネス，家族や男女関係にも存続しているけれども，それらは現在ではしだいに変化する兆候をみせている，というのである。しかし明るい面ばかりとりあげているのではない。たとえば，住宅問題，老人問題，環境汚染などにも注意を向けている。さらに現今の朝鮮人問題，部落問題などもとりあげ，差別の事実のあることも指摘する。

いずれにしても，過去10年のあいだに，日本ではいくらかの変化があったことになる。もちろんここに記したのはそのなかの一駒にすぎない。しかし NORBECK 氏が主張したい点は，こうした変化は過去を一掃してしまうような革命的なものではなかった，ということである。しかも，変化は続いているにかかわらず，日本での全体的ふん囲気からすると，平穏かつ安定的で，活動的だが決して激動的でない，という印象を受けたという。調査地の高島の人々はたいした苦悩なしにすみやかに適応していたったように，国民全体においても，決定的な痛手なしに，今直面している諸問題に適応しているという印象を受けたというのである。ドラマチックな変化にうまく適応していったという，その高島であるけれども，改訂版4章において記述されるとのことである。その出版が早くなされることを望みたい。